

《著者紹介》

杉谷直哉（すぎたに・なおや）

1990年 大阪府生まれ。

2013年 島根大学法文学部社会文化学科卒業。

2015年 京都府立大学大学院文学研究科史学専攻博士前期課程修了。博士（歴史学）。

現 在 島根大学法文学部山陰研究センター客員研究員、丹波篠山市役所職員、京都文教大学非常勤講師。

論 文 「“平和主義者” ダグラス・マッカーサーの実像——憲法第九条の父をめぐる言説史」『ROLES REPORT』32、2024年10月。

「戦時日本の「翼賛行政」——京都府竹野郡木津村役場文書からの検討」『道歴研年報』25、2024年9月。

「“平和主義者” 幣原喜重郎の誕生——憲法第九条幣原発案説の言説史」『Antitled』3、2024年5月。

「島根県における立憲民政党地方組織の展開」『選挙研究』38(1)、2022年7月。

「島根県における選挙粛正運動の展開」『島根史学会会報』60、2022年7月。

「島根県における政党内閣制崩壊前後の政党勢力の展開——二つの総選挙をめぐる二つの逆説」『日本政治法律研究』4、2022年3月。

「渡部寛一郎文書と政党政治」『近代山陰地域の文化教養環境における漢詩文の位置』2022年2月。

「政党政治家のイメージ形成について——若槻礼次郎の伝記と地元評からの検討」『山陰研究』12、2019年12月。

「「地方メディア」の政党論——島根県の地方紙・郷土人雑誌の分析から」『洛北史学』20、2018年6月。

「島根県における憲政会・立憲民政党勢力の形成と展開」『山陰研究』10、2017年12月。